

協議テーマに係る意見書の提出について（複合災害対策委員会）

意見書を次のとおり提出するものとする。

令和3年2月4日提出

複合災害対策委員会

委員長 村田晴哉

岩田宙

内田悠斗

大八木梨湖

岡島武斗

新庄信吾

中山悠華

藤澤大峰

向畑航

和田治樹

意見書（複合災害対策委員会）

当委員会の所管事項に関し、高校生の視点から、以下の項目について提案するものです。

記

1. 感染症が流行する中の避難所運営において専門的な立場から適切な判断を行うために、十分な数の保健師の確保に努めるとともに、専門的知見に基づいて分かりやすい避難所運営ガイドラインを整備し、各地区において感染症対策の視点を加えた避難所運営マニュアルが作成できるよう強力に支援すること。また、想定外の事態に対しても迅速に対応するために、有事の際の指揮命令系統を明確にすること。
2. 大規模災害時の避難所運営に感染症対策の視点を加え、ハード、ソフト両面での感染対策を徹底しながらもプライバシーへの配慮等に努め、避難者の心が少しでも休まるようにホテルへの避難や車中泊、テント泊といった手法も含めて、様々な状況に対応できる避難方法を検討すること。
3. 災害時に役立つアプリ等の独自開発を早急に検討し、避難所運営マニュアル等も含めて事前に市民に周知すること。加えて、アプリ等も活用しながら備蓄状況や避難所の収容人数等の基本的な情報を積極的に公表したり、防災訓練等を重ねることで市民の防災意識の醸成を図り、相互の助け合いの中で誰もがスムーズに避難できるようにすること。
4. 車中泊のための駐車スペース確保や迅速な情報共有等を含め、災害時のあらゆる事態に対応できるよう、幅広い企業や団体、広域自治体間での協定締結を進めること。

以上、意見書を提出します。

令和3年2月4日

四日市市議会高校生議会

【保健師の確保について】

○避難所への保健師の常駐と保健師による感染症予防の資料配付、掲示。

理由最近では、SNSの普及等により、世の中にたくさんの情報が溢れている。これは自分の求めている情報が簡単に得られる反面、間違った情報もすぐに出回ってしまうというリスクもある。そこで、避難所に保健師が常駐していれば何かあれば質問をし、正しい知識を得ることが出来る。また、感染症予防の簡単でわかりやすい資料を保健師に作成してもらい、配付・掲示することで正しい知識を得て避難者の安心につなげるとともに感染症予防ができると思う。以上の点より、避難所での保健師の常駐と保健師による感染予防の資料配付、掲示を提案する。

→保健師を目指す人材を確保するために、災害時に医療・衛生面で活躍が期待される方々の仕事紹介等を通じて保健師の仕事内容やなり方などを周知し、興味を持ってもらう。

また、災害時に役立つアプリ等を活用してこれらの内容を発信すれば、より多くの人に見てもらえるのではないか。

【有事の指揮命令系統について】

○防災計画にあった非常時の通信手段を、不測の事態が発生した際に速やかに会議、相談を行うために使用すること。

理由東日本大震災においては、避難所生活の中で育児、介護等への配慮に関して想定外の問題が起こった。コロナ禍の災害においては、過去に経験のない問題が発生する懸念があるため、特定の時間に各避難所が抱える課題を聞き取る仕組みを作るなど、対処法を市や県で統一しておく必要があると感じる。

【避難所の感染症対策について】

○新型コロナウイルスの感染の影響を踏まえつつ、災害時に混乱が起こらないように深く想定したうえで避難所運営・避難所生活を検討すること。

理由①避難所の運営

私自身、指定避難所になじみがない。また、災害時に避難所でどのように行動すべきか分からない方も多いと思われる（ペットの同伴、避難生活をする場所、物資の入手方法等）。避難所に着いてから避難所生活の

中での活動等、事前に受付やリーダーなどの仕組みを整える必要がある。また、もし新型コロナウイルスの感染者が出た場合の対応について深く想定する必要がある。

②避難所生活

新型コロナウイルスの影響を考慮すると、避難所生活の在り方を変更すべきである。海外ではテントを設置することによってプライベート空間を作った事例がある。また、熊本地震では、坂茂さんの「ペーパー・パーテーション・システム」というものを使い、個人の空間を確保しており、本市でも何か具体的な対策が必要だと感じた。さらに、個人の空間を作ることで感染予防にも効果が期待できる。

○避難所として体育館に加えて運動場を追加し、そこで生活できる簡易テントを準備する。

理由新型コロナウイルスや類似する感染率の高いウイルスが蔓延している場合、人との距離を保つ必要がある。過去、東日本大震災時の体育館での避難生活を見る限り、2 m以上の間を空けていない場合でも入りきるのがやっとだと思われる。このことから、ウイルス対策を行うと今まで以上の敷地の確保が必要となり、運動場を避難所として活用することで、より感染予防に繋がると考える。

また、津波等で車中泊ができない場合、安全に生活ができるよう簡易テントを用意し、体育館内だけでなく、運動場を利用することで広さを確保できる。

車中泊が可能な場合は、駐車スペース、簡易テントスペースを設け、テントを無駄にすることなく活用できる。

○3密を避け、プライベートな空間を作り、避難者の不安やストレスを軽減させること。

理由身体的距離を取るだけではなく、マスクやフェイスシールドはもちろん仕切りを設けることによって、感染リスクを下げることができる。加えて、家族以外との接触を避けることにより、プライベートな空間もでき、不安やストレスを少しでも減らすことができるのではないかと。

○避難所では、ダンボールを積極的に用いて仕切りをつくる。

理由避難所ではダンボールを用いて避難スペースを小分けすることで避難所内での人の移動を抑え、飛沫感染などのリスクを下げることでクラスター

一を未然に防ぐことができ、有効な方法である。さらにダンボールで仕切ると避難者のプライバシーの保護の向上につながる。

○避難所におけるサーマルカメラの導入

理由 避難所生活で、コロナ感染のリスクをおさえ、受け入れ人数を増やすためには自動検温をするシステムの導入が望ましく、特に大人数を受け入れる避難所には優先的に配置すべきと考える。

○避難所で感染拡大を防ぐために、各避難所の保健師の数を増やし、体育館だけでなく学校内の校舎・校庭を使うなど学校の中でも幅広く避難所として活用する。

理由 避難所で新型コロナウイルスを防ぐには、手洗いうがい、アルコール消毒はもちろん、ソーシャルディスタンスを保ち、三密を回避することが特に重要である。

三密は「密閉、密集、密接」を意味するが、体育館等では密集することが多いので、区切り方も細かくした方が良い。

ソーシャルディスタンスについては、人との距離感を考えた方が良い。校庭を避難所として活用することで、三密を防ぐことができる。また、家族で車中泊ができ、他の人との接触の機会を低減させる効果が期待できる。ただし、地域によっては車中泊が難しい可能性がある。

○発熱あり、発熱なし、高齢者、基礎疾患持ちなど、避難者をもう少し細かくふるい分け、スペースを区切るべきである。

理由 人との関わりを少なくすることで感染を防ぐことができるので、学校の中でも避難所として活用できるスペースを拡大し、体育館の中でも細かく区切ることで感染拡大を防ぐことが出来ると考える。

【分散避難の手法について】

○分散避難をしてもらうために、避難場所を増やすこと。

理由 コロナ禍の状態においては、避難場所での三密（密閉、密集、密接）を防ぐことが重要になってくると考える。そのため、学校であれば、体育館や各教室、グラウンドへのテントの設置、さらに、ホテルや知人宅などへの避難も市民の方々に考えてもらい、分散避難を呼びかけることで避難場所の3密が避けられると考える。

○避難所での3密を避けるため、四日市市内のホテルと提携し、災害時にはホテルを避難所として利用できるようにする。

理由既存の取り組みでは、避難所というと小中学校や高校、地区市民センターが主であった。しかし、コロナ禍において、これらの避難所だけでは特に大きな災害において、避難所が感染リスクの非常に高い空間になることは避けられない。そこでホテルと提携を結ぶことが有用であると考えられる。ホテルであれば例え大きな災害であったとしても倒壊する可能性は低く、また収容可能人数も多いため、避難所の3密回避にも大いに役立つと考えられる。そのため、ホテルを避難所として利用できる仕組みを今からしっかりと整えていくことが大切である。

【防災、避難に役立つアプリの導入について】

○避難した際、受け入れ拒否を防ぐため、避難所ガイドアプリを作成する。

理由全国には、現存地から周辺の避難所が分かるアプリがある。四日市市で独自の避難所アプリを作成し、避難所の混雑状況を色分けして一目で分かるシステムを作る。そうすることで、コロナ対策をしつつスムーズに受け入れが可能になると考える。

→備蓄状況や避難所の収容人数も災害時に役立つアプリで確認出来ると良い（基本的情報等を紙で配布した際、災害が起こった後に配布した紙が紛失する可能性がある。）。

アプリの開発もどのタイミングでするのが問題となってくるので、早急に導入すべき（災害はいつどこで起こるか分からないから難しい。）。

スマホの普及率が高いので、紙よりアプリの方が良い。

→アプリ内で災害時にも役立つメディアとして、ラジオや地域のケーブルテレビ局等とも協力し、早く情報が市民に届くようにすれば、より活用しやすいアプリになる。市民にもさらに寄り添い、興味をもってもらえるのではないか。

【防災意識の向上について】

○ヘルプマークを広める。

理由災害の時に色んな人に助けて貰いたいから。

○給水車から水を貰う体験の場等の設定。

理由実際にやらないと解らないので、水を貰いに行くことなどを体験できるようにする。

→来庁した市民等を対象に防災意識のアンケートを実施し、それを基に、各

種政策を推進する方がより効果的で、市民の防災意識の現状を把握できるというメリットもあるのではないかと考える。

また、防災活動面では、普及活動を中心に活動する高校生消防団を設立し、若者からたくさんの方々呼びかけを行うといったことも有効な手段ではないかと考える。

【市の防災対策に関する情報の公開について】

○各避難所のコロナ後の具体的な収容人数の調査・公表。

○現在、物資や感染予防具がどれだけあるのかを地域住民へ公表。

理由災害はいつ、どのタイミングで発生するか予測することはできない中、今、現在災害が起きてしまった場合、感染予防等も考慮すると、災害現場はパンク状態になると思われる。特にソーシャルディスタンスを保った際、避難所に入れなかった人はどうするのかなど、早い段階で決めておくことで少しでも混乱を防ぐことができれば、スムーズな避難等を実現できるのではないかと考える。

【学校再開に向けた計画の作成について】

○避難所として学校を使用した際、どのタイミングで学校教育活動を再開できるのかといった、具体的な計画の作成。

理由東日本大震災等においては教育活動が中々再開できなかったことから、どこまで災害復旧ができれば再開するといった計画を作成しておけば、学校・教育機関等もスムーズに運営を行っていただけるのではないかと考える。

【民間事業者との協定の拡大について】

○レンタカー店と取り決めを交わし、災害時にレンタカーを避難場所として借りる。

理由感染症が広がる中、感染者の隔離は重要課題となる。そこで、車を利用した避難を提案する。これは自宅から車で避難するというのではなく、駐車場に車を用意しておき、そこで寝泊まりしてもらうというものである。しかし、津波等で持っている車が使えなくなる可能性もあるし、公用車にも数に限りがある。そのため、災害時にレンタカー店から車を借りる方策を提案する。

→人との接触を避けるため、車中泊をする人が増えると思うので、学校の校庭だけでなく、周りにある店の承諾をもらった上でその店の駐車場も使う

ことで、車を持っている人は誰でも車中泊ができる。

避難所の近くの店の駐車場を利用して車中泊をする。（感染リスクを抑えるため。場所を特定すると込みやすくなると思う。）

【自治体間の協力体制の構築について】

○他府県の市町村との関係を深め、医療支援や物資の供給といった災害支援についての協定を作る。

理由 実現はかなり難しいかもしれないが、実現すればお互いの交友関係をさらに深めていけるだけでなく、災害時の混乱も大幅に軽減できるのではないかと考える。